

第5章 研究成果等

第1節 概要

以下、外部に委託していた自然科学分析3件と、最近の研究成果について報告する。第2節～第5節の自然科学分析に関しては、いずれも『年報1』（国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室2009）掲載の、庄・蔵本遺跡2006年度調査西病棟地点（第2図20）において検出した、弥生時代前期の畠遺構に関連するものである。このような報告は、本来本報告時におこなうべきであるが、日本における農耕文化の形成と展開を探る上で、学術上重要な内容がふくまれている。なるべく早い公表が、考古学の発展に貢献すると考えられるため、速報としてその内容を掲載しておきたい。なお、これら報文は、本報告刊行時に再録する予定である。

第6節は、整理作業中の1995年度調査東病棟地点出土の東日本系土器について報告した。

以下第1節としてそれぞれの内容についての概略を記し、第2～5節の理解に必要な第21～29図を合わせて掲載する。

（第2節）庄・蔵本遺跡における植物珪酸体分析

西病棟地点畠遺構の機能をさぐるために、徳島大学埋蔵文化財調査室では植物珪酸体分析、花粉分析、フローテーション法による栽培植物の検出に勤めてきた。植物珪酸体分析の1部は、すでに報告済みである（株式会社古環境研究所2009）。その際、イネの生育初期段階の植物珪酸体が検出されたことから、選択肢のひとつとして苗代説が浮上した。今回の分析は、苗代説を探るための比較資料として、弥生時代前期の水田遺構の土壌分析をおこなったものである。対象とした試料は、1999年度調査中央診療棟地点（第2図17）と2006年度調査医学系実験研究棟Ⅱ期地点（第2図19）のものである。中央診療棟地点の水田遺構上土層断面（第21図）と、医学系実験研究棟Ⅱ期地点の土層断面（第22・23図）、同水田面（第23図）それぞれの分析をおこなった。分析は株式会社古環境研究所（杉山真二氏）に依頼した。

（第3節）庄・蔵本遺跡の畠遺構における花粉分析

西病棟地点で検出した畠遺構の花粉分析を、東北大学学術資源研究公開センター植物園の上中央子氏に依頼した。試料の採集地点は、第24・25図を参照いただきたい。

（第4節）庄・蔵本遺跡における年代測定

西病棟地点出土の畠遺構の年代的裏づけをかねてからおこないたいと考えていた。2007年5月17日、国立歴史民俗博物館の藤尾慎一郎氏が、科学研究費補助金（学術創成）「弥生農耕の起源と東アジア—炭素年代測定による高精度編年体系の構築—」にかかわる調査の一環として来訪されたため（第28図下段）、西病棟地点の畠遺構と、関連資料についての分析を依頼した。分析を担当されたのは、藤尾氏のほか坂本稔・住田雅和両氏（いずれも国立歴史民俗博物館）である。分析試料は、畠遺構（畝4：第24図）出土の木炭1点（IAAA—71931）のほか、畠遺構とこれを灌漑するSD312との水口部分（第24図）より出土した炭化種子（アワ・キビ）2点（IAAA—71927・71928）、炭化物1点（IAAA—71929）、SK313（第26図）出土の木炭1点（IAAA—71926）、SD315（第26図）出土の炭化種子（コメ）1点（IAAA—71930）、木炭1点（PLD—9660）、土器（甕用蓋）付着炭化物（第27図6、第28図）1点（IAAA—71932）の8試料である。試料を採取した遺構の配置と出土遺物については、第24・26～28図を参照いただきたい。なお、年代測定はおこなっていないが、SK313よりエゴマ類似果実（第34図9）、SD312よりマメ科種子（第34図10）が同定された。なお、第27・28図に、参考資料としてSK313・SD315出土土器を掲載した。

くわえて、年代は測定していないが、1995年東病棟地点（第2図13）SD61出土の炭化米塊（第34図11～13）についての所見もいただいた。

（第5節）庄・蔵本遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

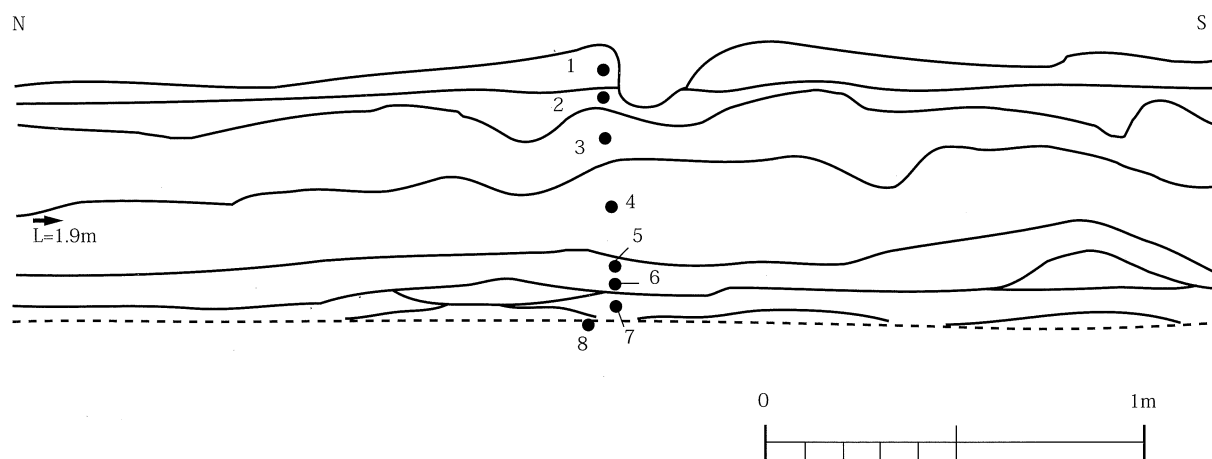
西病棟地点畠遺構に関する年代測定の追加として、株式会社加速器分析研究所にも分析を依頼した。比較試料として1995年度調査東病棟地点（第2図13）と、2006年度調査医学系実験研究棟Ⅱ期工事地点の試料についても分析している。分析を依頼した試料は計10点で、西病棟地点では畠遺構（SU303・畝1：第24図）出土の炭化物2点（IAAA—91361・91362）、同土壌試料2点（第26・29図、IAAA—91363・91364）の計4点である。医学系実験研究棟Ⅱ期工事地点は土壌4点である（第22・23図、IAAA91365～91368）。東病棟地点は、SD61出土炭化米1点（IAAA—91359、第34図11～13と同じ塊）と同SD61出土甕底部付着炭化物（IAAA—91360）1点である。なお、分析にあたって、同社山田しょう氏に仲介いただいた。

（第6節）庄・蔵本遺跡1995年東病棟地点出土の東日本系弥生土器

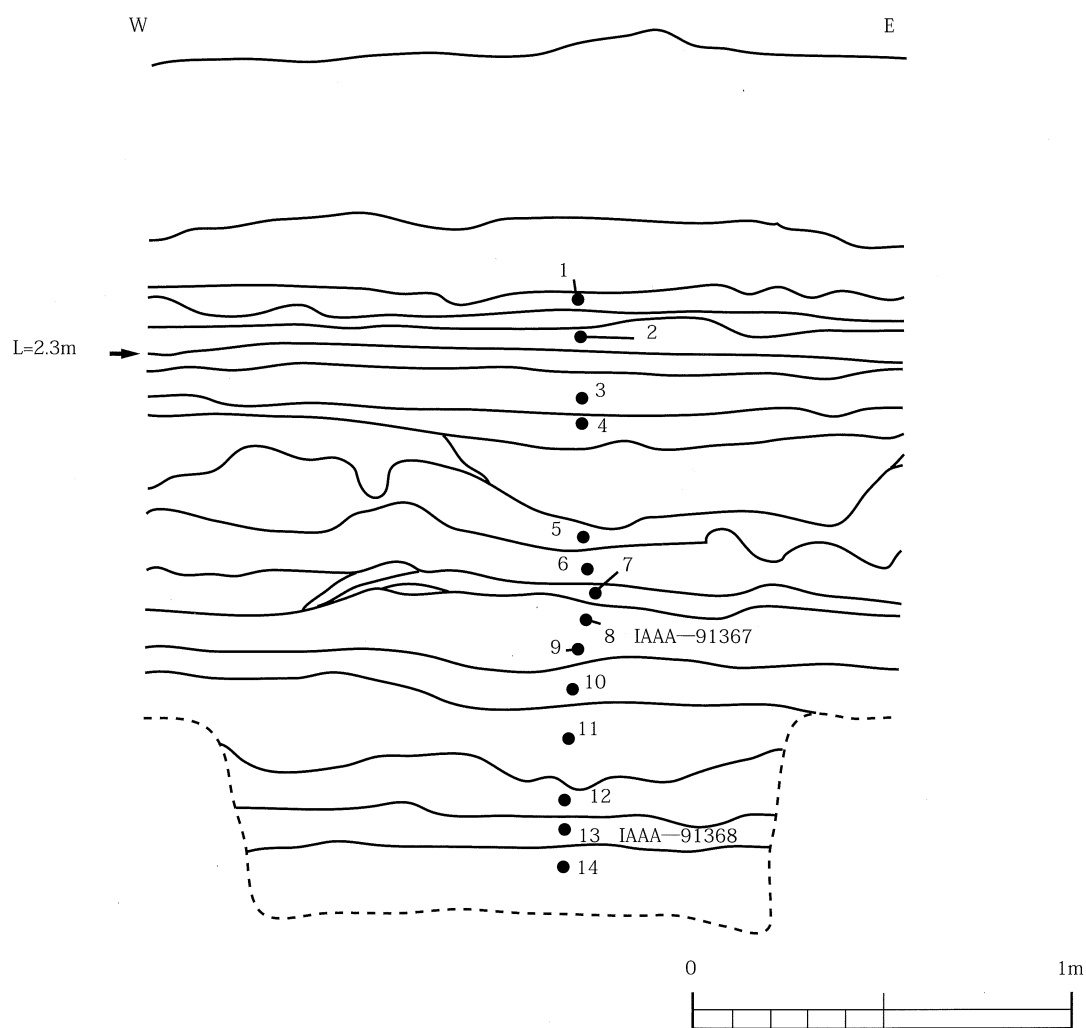
庄・蔵本遺跡1995年東病棟地点出土資料の整理中に東日本系の弥生中期土器が出土した。本地域としてはめずらしい類例であるため、ここに報告する。

文献

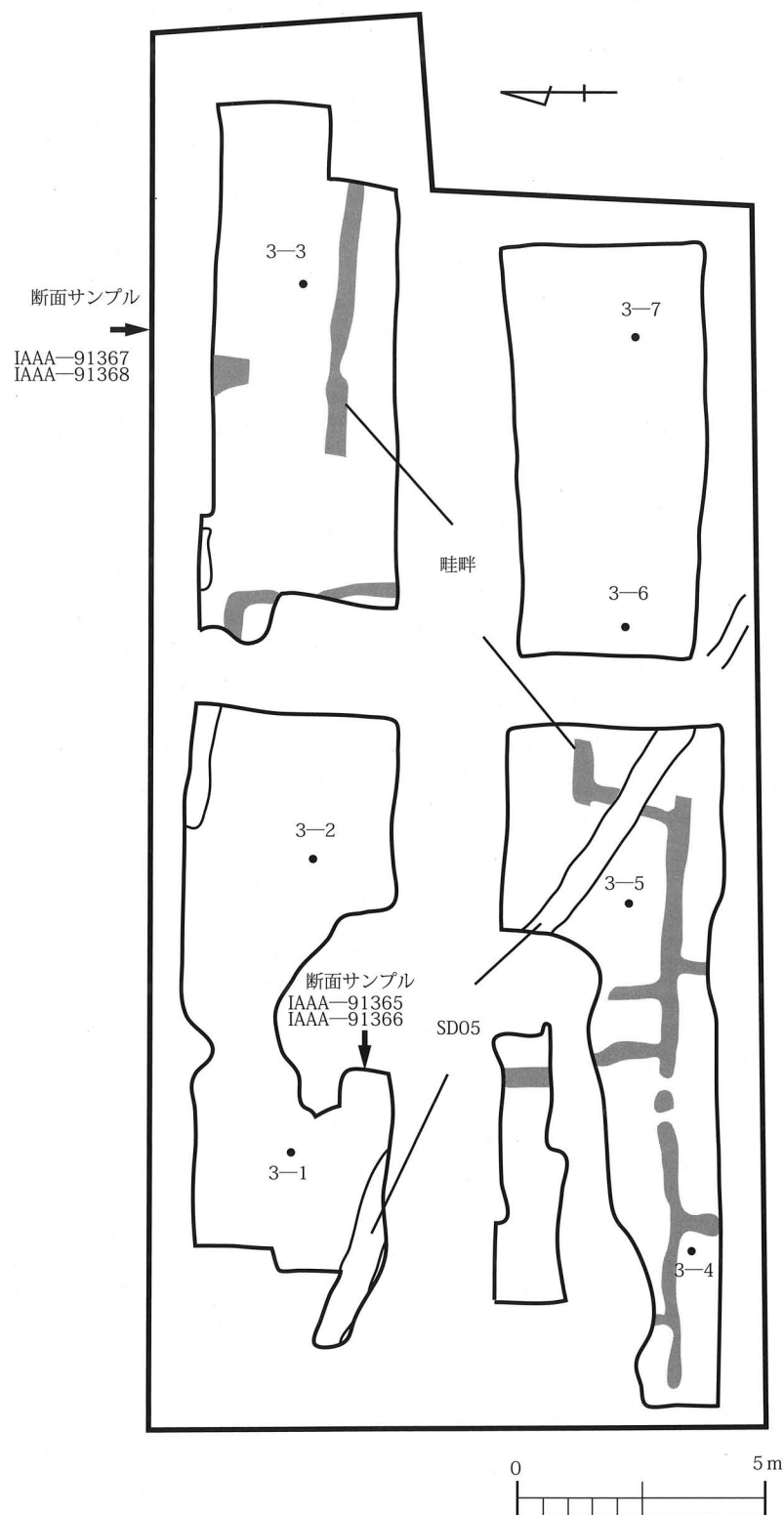
株式会社古環境研究所2009「庄・蔵本遺跡西病棟建設予定地におけるプラント・オパール分析1」『国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室 年報1』国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，p36—44.
国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室2009『国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室 年報1』



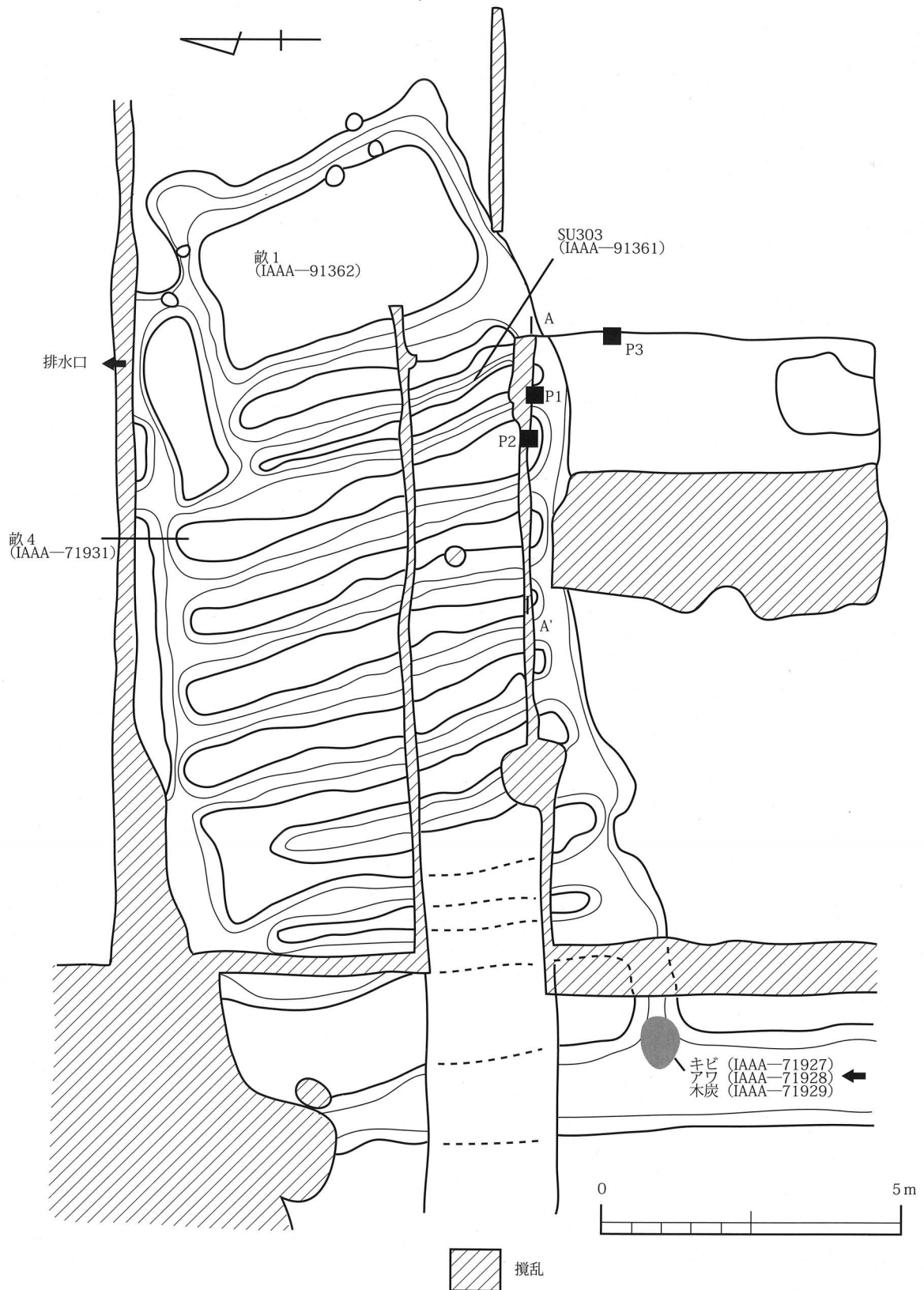
第21図 庄・蔵本遺跡1999年度中央診療棟地点土層土壌サンプルの位置



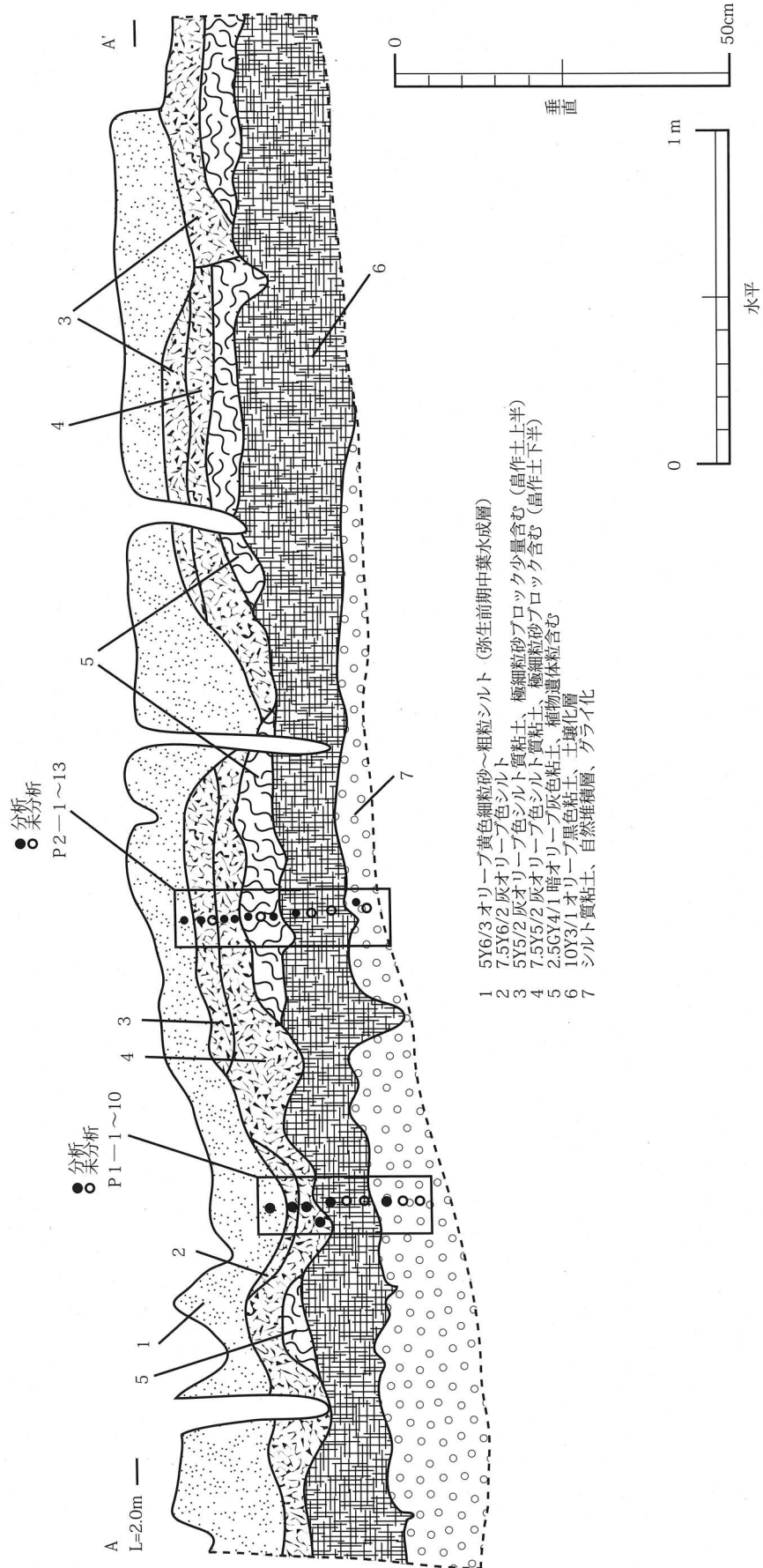
第22図 庄・蔵本遺跡2006年度医学系総合実験研究棟Ⅱ期地点土層土壌サンプルの位置



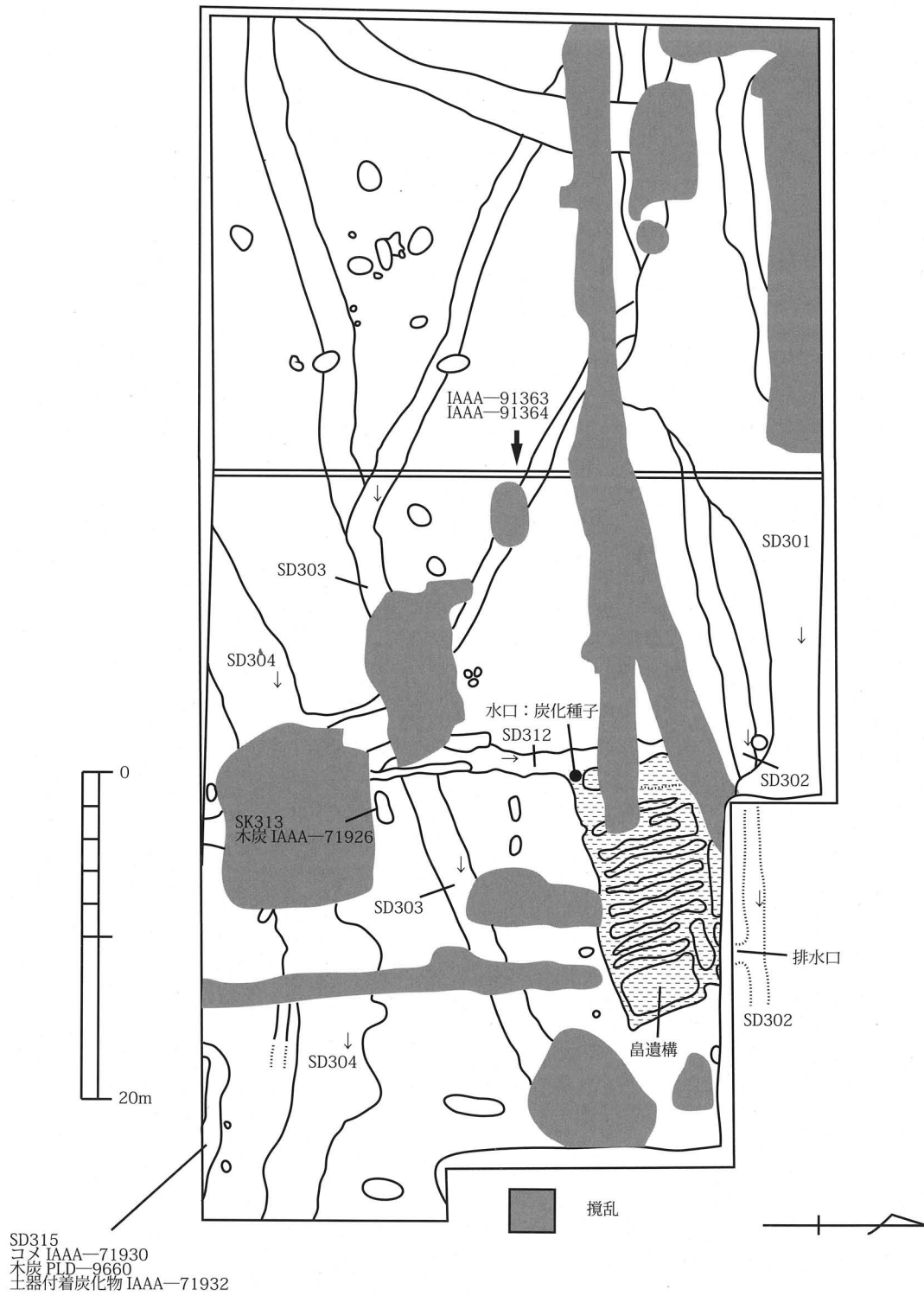
第23図 庄・蔵本遺跡2006年度医学系総合実験研究棟Ⅱ期地点土壌サンプルの位置



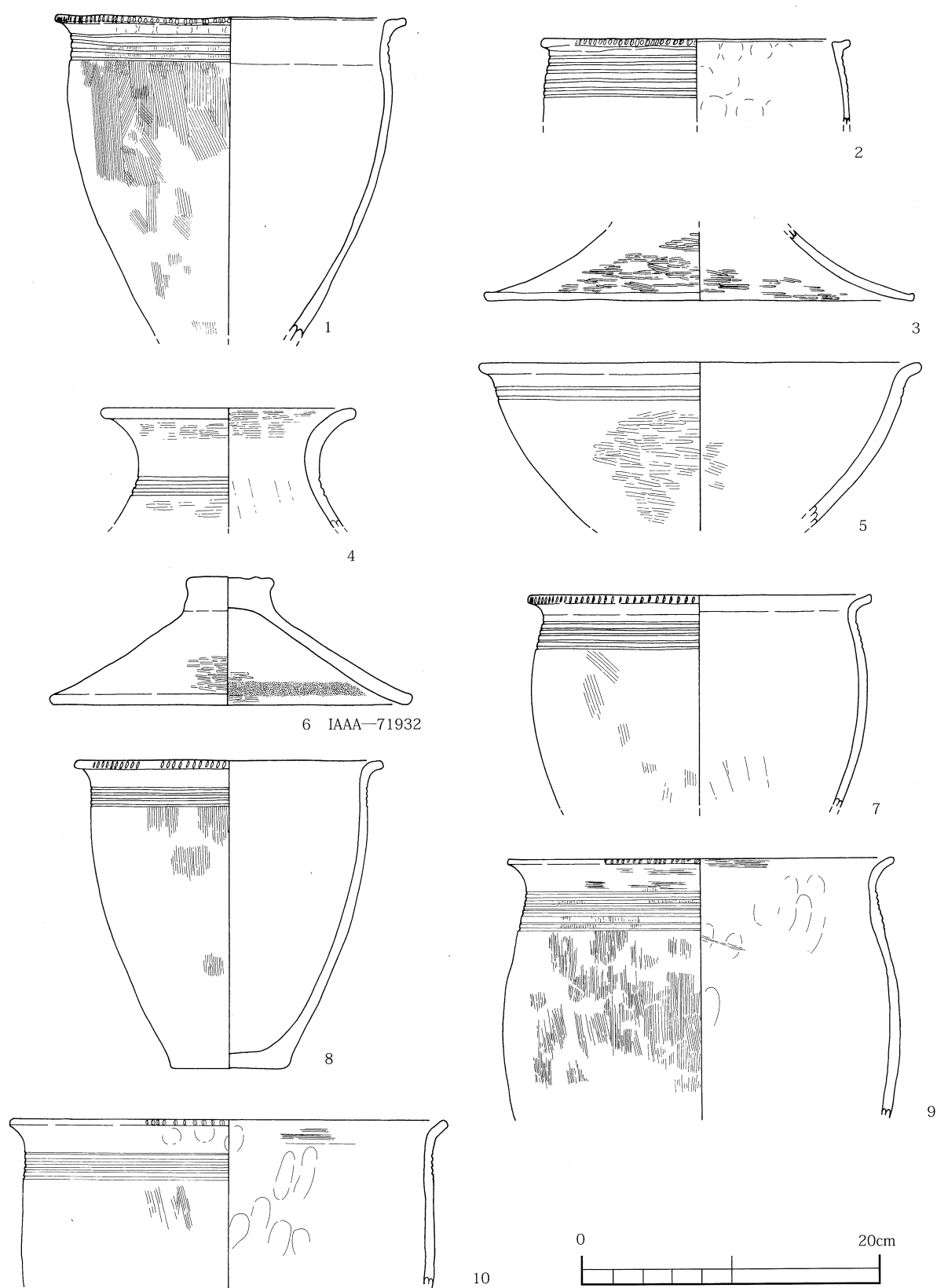
第24図 西病棟地点弥生前期畠遺構と土壌サンプルの位置



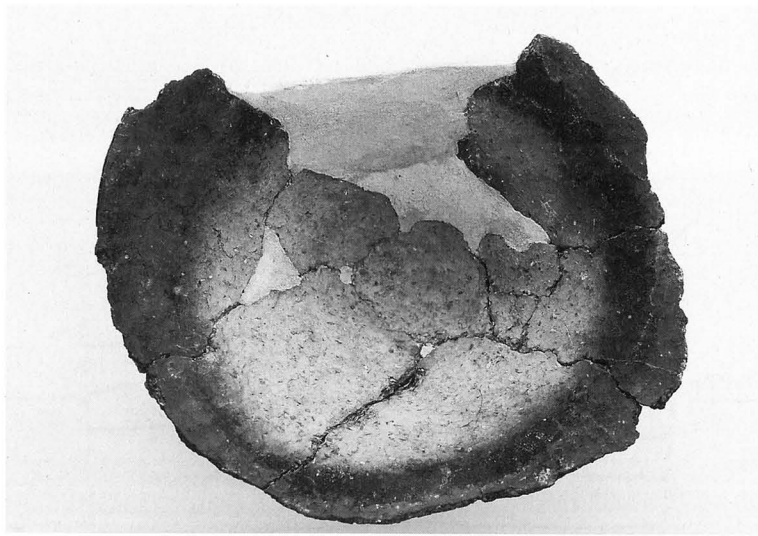
第25図 畠遺構土層断面図と土壤サンプルの位置



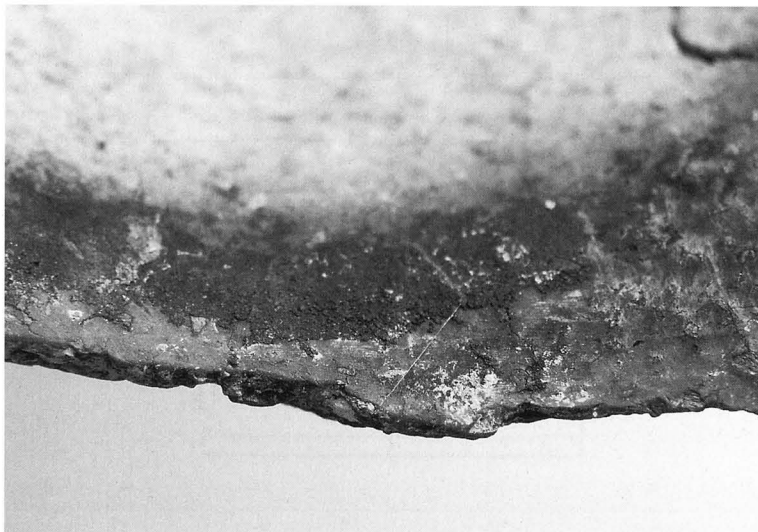
第26図 西病棟地点 3 第遺構面



第27図 SK313出土土器 (1~3)、SD315出土土器 (4~10)



SD315 出土甕用蓋内面炭化物付着状況 IAAA—71932

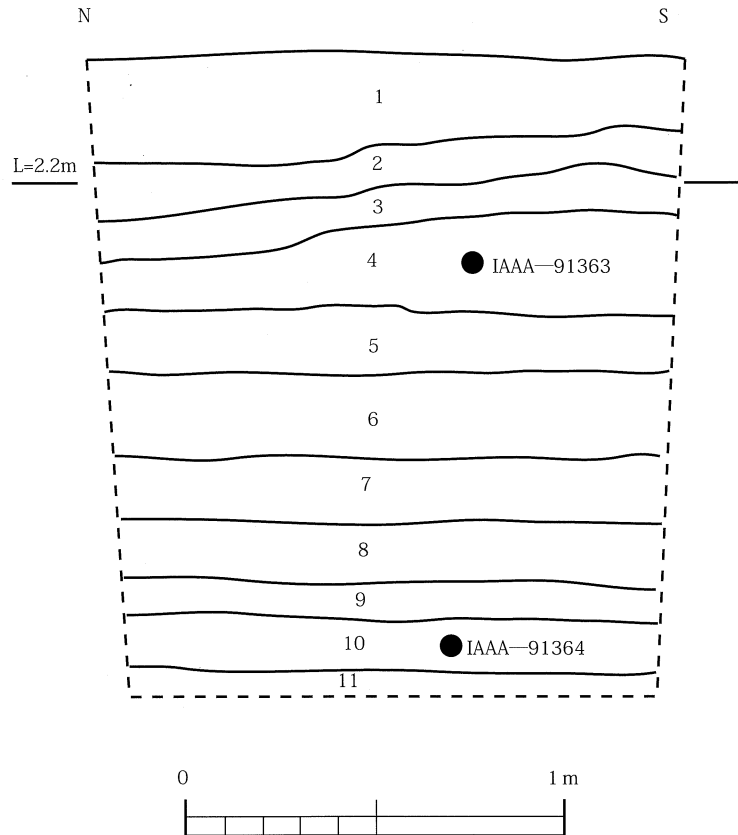


同上拡大



同上試料採取状況

第28図 SD315出土甕用蓋と付着炭化物



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂（弥生前期末の洪水砂起源層、攪拌）
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂（弥生前期末の洪水砂起源層、攪拌）
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（弥生前期中葉以前の土壌化層）
- 4 2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト（弥生前期中葉以前の土壌化層）
- 5 2.5Y5/3 黄灰色および、10Y4/2 オリーブ灰色シルト、一部グライ化
- 6 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質粘土
- 7 10Y4/1 灰色粘土鉄分を多く含む
- 8 7.5Y4/1 灰色粘土、有機物若干を含む
- 9 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土、有機物含む
- 10 5Y3/1 オリーブ黒色粘土、有機質層（縄文後期末・晩期初頭）
- 11 5Y4/1 灰色粘土

第29図 西病棟地点基本土層概略